

本コラムもおかげさまで150回。13年(!)にわたる天プラの活動を、ここで一度振り返って
みます。

高梨直純 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

筆者 2 人が大学院に入った年の夏、天文学を学ぶ学生とプラネタリウムが一緒になって楽しく新しい天文普及活動を実現するために立ち上げたのが「天文学とプラネタリウム (天プラ)」です。天文学を専門とする学生と宇宙を伝えるプロであるプラネタリウムが協力することで、効果的に活動を行うことを狙ったものでした。今ではプラネタリウムに限らずさまざまな場での活動を行っていますが、自らが楽しめる形で、専門性と幅広い人脈を生かし、天文学を日常生活に編み込んでいく、という 3 つの点は当初から変わっていません。

天プラの活動は多岐にわたります。12年にわたって天プラの看板商品であり続ける「Astronomical Toilet Paper」、天文学的知見を網羅することを目指した「宇宙図」、都心の観光地で観望会を実施する「六本木天文クラブ」、小学校の課外活動として 10 年続く「三鷹四小アストロ

クラブ」など、さまざまな形・場で天文学と関わる機会づくりを行っています。といっても単に手広く活動しているのではなく、プロジェクトごとに明確な目標と対象を設定していることも特徴です。

明確な目標設定の例として、「バリアフリー」を目指す活動を挙げてみましょう。たとえばお子さんが小さく自由が制限されるご家族向けに託児サービス付き天文教室を企画したり、入院して自由に外出できない子どもたち向けに院内天文教室を開催したり。社会に存在する課題を見極め、天文学普及の場ではどのような解決策がありうるかを天プラなりの考え方で試行してみたものです。

さらに天プラは、天文学と社会のより良い関係を構築することを現時点での最終目標に置いています。今後変わる可能性もありますが、遠大な時空間を相手にする天文学の考え方、天文学が構築する世界感を共有することで社会と私たち自身を変化させ、新しい価値観を作っていく。



天プラの主要活動の一つ、六本木天文クラブ。都心の皆さんの生活の一部にも天文を。

言葉にすると漠然としたものになってしましますが、常に新しい形と新しい場で新しい対象を意識することで、目標に挑む実験をこれからも続けていきます。関心のある方、ぜひ一緒に。



